

令和元年度第1回秋田市公立大学法人評価委員会会議録

1 日 時 令和元年7月12日 金曜日 10時30分から12時

2 会 場 秋田市役所4階 会議兼応接室

3 出席者

【委員】

高橋 誠記 委員長

鏡 隆千代 委員

村國 聡 委員

吉岡 順子 委員

【公立大学法人秋田公立美術大学】

霜鳥理事長兼学長、堀井副理事長、尾登理事、北嶋事務局長、柳田総務課長、田村学生課長、畠山企画課長、大淵総務課長補佐、工藤総務課副参事、高嶋企画課副参事、佐藤企画課主席主査、清水学生課主任

【設立者・評価委員会事務局】

竹内企画財政部長、工藤企画財政部次長、堀井参事、半田主席主査

4 発言録

次第1 開会

事務局

ただいまから令和元年度第1回秋田市公立大学法人評価委員会を開会する。

本日は、全委員出席しており、本委員会条例に規定されている定足数を満たしていることを報告する。

次第2 新任委員の紹介

事務局

(村國聡委員を紹介)

事務局

議事の進行については、議長である高橋委員長にお願いする。

次第2 議事 秋田公立美術大学平成30年度業務実績について

委員長

次第に従い、議事を進行する。

本日の審議は、公立大学法人秋田公立美術大学の平成30年度における業務実績に対し、質疑や意見を頂くとともに、同年度の財務の状況等について質疑を行う。

平成30年度秋田公立美術大学の業務等の実績について、公立大学法人秋田公立美術大学が資料を説明後、質疑応答、意見聴取に入る。

公立大学法人	（「資料1-1」から「資料1-3」、「資料2-1」から「資料2-4」、「資料3」について説明）
委員長	それでは質疑応答、意見聴取する。
委員	キャリアセンターおよび国際交流センターの職員は、事務局職員が兼務しているのか。
公立大学法人	キャリアセンターは学生課職員が、国際交流センターは企画課職員が兼務している。
委員	資料1-3の連番47について、大学院の前期アンケート結果の満足度が低いことについては、どのように捉えているか。
公立大学法人	大学院生と教員の考え方のかい離が一番大きな原因と思われる。 教員は多くの講義を行おうと努力している一方、大学院生にとっては講義だけでなく、研究テーマにも時間を割きたいというギャップがアンケート結果に反映されたと思われる。
公立大学法人	大学院教員の中には、教員の経験がない者もあり、大学院生の要望に応えられなかったと感じている。
委員	状況を整理し、大学院生の満足度を向上させてほしい。
委員	教員は任期制か。
公立大学法人	教員の任期は5年である。 採用から3年目で教員を評価した上で任期を継続させる。 5年を越えると長期継続となる。
委員	BIYONG POINTでの展覧会等、芸術を鑑賞できるよう努めているが、更に多くの方が貴学の芸術に触れられるよう、人通りの多い場所での展示も検討してほしい。
委員	展覧会等、活発に活動していると感じる。 ダイバーシティの観点から、美術にも女性の感性が重要と思われるがどのように考えているか。 また、標準型攻撃メールによる情報漏えい、SNSを使用した情報発信による個人の特定等、情報セキュリティに関するリスクに対応する必要があると認識しているが、取組はどうか。 コンプライアンスについて、世間の一般常識とズレが生じてしまうと、大学のイメージダウンとなりうる。セクハラ、マタハラ等に対する世間の見る目は厳しい方向に向かっていることから、研修を強化するなど、適切

に対応することが望ましい。

公立大学法人

ダイバーシティについては、本学でも重要なことと認識している。
本学の学生の8割は女性であるが、教員については男性社会の傾向がある。

今後、教員を採用するにあたって、若手、外国人、女性の3点が重要な視点と考えている。

情報セキュリティについて、学生に対しては授業を通じて様々なリスクを教えているが、教職員を含め全員が理解しているとは限らないことから、コンプライアンスの問題を含め、FD（ファカルティ・ディベロップメント）・SD（スタッフ・ディベロップメント）委員会で研修を行っていきたいと考えている。

※FD：教員が教育内容、教育方法等を改善し、教員の教育力を向上させるための組織的な取組

SD：教職員の資質向上のための組織的な取組

公立大学法人

ダイバーシティおよびコンプライアンスについては、人材育成計画や教職員の研修計画に基づき、研修に努めている。

委員

資料1-3の連番23について、満足度が低い授業の傾向はどのようなものか。

公立大学法人

把握している範囲では、授業に遅れて来る、予定が急に変更となる授業の満足度が低かった。

公立大学法人

教員が自身の経験等を学生に伝え、成果を出させることが重要である。
教員が学生の視点で考えているか否かで評価が変わってくると思う。

委員

学生の視点で行っている授業の満足度が高いという傾向があることから、この取組は、健全で有効なものであると思う。

委員

減損損失の計上がされていないが、消費される固定資産について時価の検討をして兆候がないということか。

または、著しく下落していないことか。

公立大学法人

減損損失については結果的には計上していない。

外的な要因や、例えば経営の悪化などの兆候がないということである。

委員

そのような兆候がないため、その先の検討は行っていないということか。

公立大学法人

そのとおりである。

委員

第三者に対して貸出しを検討しているのか

公立大学法人	職員に対し駐車場の有償貸出しをしている。 また、外部の方に体育館を貸出ししている。
委員	貸出しの対象資産は体育館と駐車場に限定しているのか。
公立大学法人	主なものは体育館、駐車場である。
委員	負債にリース債務が計上されているが、長期リースの残存年数はどうか。
公立大学法人	長期リースの主なものはパソコン関係であり、5、6年で更新している。 現状、リース期間が最長のものは、2022年までとなっている。
委員	主に事務機器のリースか。
公立大学法人	そのとおりである。
委員	どのような業務を委託し、人件費等の経費削減をしているのか。
公立大学法人	職員が社会貢献センターで行っていた業務を、NPO法人アーツセンターあきたに委託し、業務の効率化を図っている。
委員	非常勤職員（嘱託職員）数が昨年度と比べ、8名減となっている理由はないか。
公立大学法人	社会貢献センターを廃止し、NPO法人アーツセンターあきたを設置したことによる減が主なものである。
委員	数値目標を大幅に上回っている業務実績が多いと感じる。 このような実績が当たり前の状況になってしまうと、今後、数値目標の設定が難しくなっていくと思われることから、次期年度計画を策定する際の数値目標は、多様な面から検討してほしい。
委員	業務については、全体的によく行われていると感じる。 資料1-3の連番9について、NPO法人アーツセンターあきたとサテライトセンターの関係が分かりづらい。
公立大学法人	次回以降、記載にあたっては留意する。
委員	連番24について、業務実績が授業参観公開科目数125科目であり、数値目標の40科目を上回って実施しているが、授業参観アンケート提出数が少ない。 公開はしたが参観者が少なかったということか。

公立大学法人	授業参観がしやすくなるよう科目数を増加させたが、思ったより参観者が増えなかった。
委員	そのような点も考慮し、Ⅲと評価したのか。
公立大学法人	そのとおりである。
委員	連番42について、数値目標を図書館蔵書冊数52,500冊以上としているが、平成29年度末時点のすでに数値目標を超えている。 年度計画の策定の詰めが甘かったのではないか。 また、計画を大きく上回っているので、Ⅳと評価してもよいのではないか。 連番7番をⅢ、連番100番をⅣと評価している点について、数値目標を越えて実施した連番7のほうがⅣにふさわしいと感じる。 連番100はモデルケースとして実施したものであり、今後の事業実施のための準備にあたり、成果とは異なると感じる。
委員	連番122について、認証評価機関の評価項目にて重視されることになった内部質保証体制については、その体制をしっかりとつくることが課題となっていることから、きちんと取り組んでほしい。
委員	Ⅲ評価が多く、達成できることを目標にしているように感じられるが、開学してからの成果として捉えて良いか。 PDCAサイクルにより、業務を改善していくうえで、今後、厳しい目標を設定してもよいと思う。
公立大学法人	開学当初は目標を達成できず低い評価となった項目もあった。 資料1-3の業務実績は、中期目標期間（平成25年度から平成30年度）の最終年度のものであり、開学からの様々な取組を積み上げた結果となっている。 次期年度計画等策定の際は、ご指摘のあった件も加味したい。
委員長	本日の意見等については、評価委員会事務局で集約し、次回の評価委員会で確認できるよう願います。 議事が終了したので、進行を評価委員会事務局にお返しする。
次第3	その他
事務局	(今後の予定を説明)
次第4	閉会
事務局	令和元年度第1回秋田市公立大学法人評価委員会を閉会する。